

PSA検査の値が4.0~10.0ng/mL(グレーゾーン)と診断された方へ

PSA検査の「グレーゾーン」とは？

従来のPSA(前立腺特異抗原)検査では、一般的には4.0ng/mL未満が正常範囲、4.0~10.0ng/mLの範囲が「グレーゾーン」とされています。これまでは、グレーゾーンの値では、がんかどうかの判断が難しいケースが多くあり、その結果、がんではないにもかかわらず、不要な「前立腺生検(組織検査)」が行われることもありました。

前立腺生検は、直腸から複数の針を刺して前立腺の組織を採取する検査です。出血や痛み、感染症などのリスクも伴います。これまで患者様から「できれば避けたい」との声が多数寄せられていました。

前立腺生検は、負担に感じるなあ



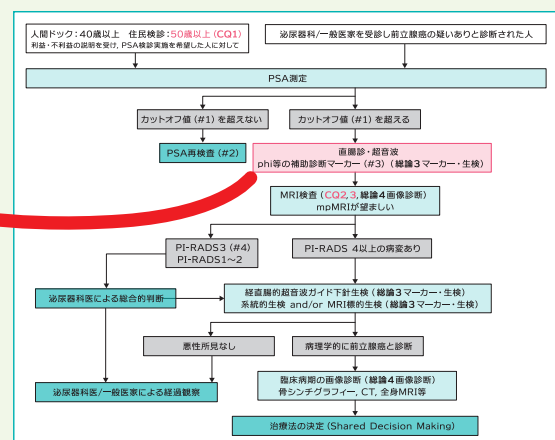
PSA検査のグレーゾーンを評価する「S2,3PSA%」検査とは？

「S2,3PSA%」は、前立腺がん特有のPSAの糖鎖構造の変化に着目した新しい血液バイオマーカーです。この検査により、従来のPSA検査では判断が難しかったグレーゾーンの患者様において、がんの可能性をより正確に評価することが可能となりました。当院では、phiやS2,3PSA%検査をおこなうことができます。

当院では、phiや2024年より認可された「S2,3PSA%」などの補助診断マーカーの検査をおこなうことができます。



診断に関するアルゴリズム



出典：日本泌尿器科学会 前立腺癌診療ガイドライン2023年版

MRIとの併用で、前立腺がんの診断精度がさらに向上

当院では「S2,3PSA%」の検査結果と併せて、必要性やご希望に応じて「前立腺MRI検査」を実施いたします。MRIは前立腺の内部構造を詳細に把握できる検査であり、血液検査と画像診断を組み合わせることで、以下の診療上のメリットが期待されます。

- 前立腺がんの発見率の向上
- がんの見逃しリスクの低下
- 前立腺生検の必要性をよりの確に判断

「S2,3PSA%」検査は、保険適用となります

「S2,3PSA%」検査は、2024年2月1日付で保険適用されました。対象となるのは、PSA検査値が4.0~10.0ng/mLのグレーゾーンに該当し、前立腺がんが強く疑われる方です。「S2,3PSA%」検査に関してご質問がある方は、主治医または受付スタッフまでお問い合わせください。

